

Ge空間情報センター

ニュースレター 第45号 2024年9月発行

【目次】

- [1. CITYGML をもっと身近に簡単に \(CITYGML 変換サービス始めます\)](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2024.7.1-8.31\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. PROJECT PLATEAU ユースケース：エリマネダッシュボード / アジア航測](#)
- [5. 注目のコンテンツ紹介](#)

1. CityGML をもっと身近に簡単に (CityGML 変換サービス始めます)



一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会 代表理事
東京大学空間情報科学研究センター長
関本 義秀

1. はじめに

「[PLATEAU](#)」や「3D 都市モデル」というキーワードは、皆様の周辺でも大分浸透してきたのではないのでしょうか。PLATEAU は、国土交通省都市局が推進する“日本全国のデジタルツイン”を実現するプロジェクトです。2020 年度にスタートし、多くの地方公共団体や民間企業・多様な研究者・エンジニア・クリエイターらが参加するプラットフォームとして、現在も成長を続けています。

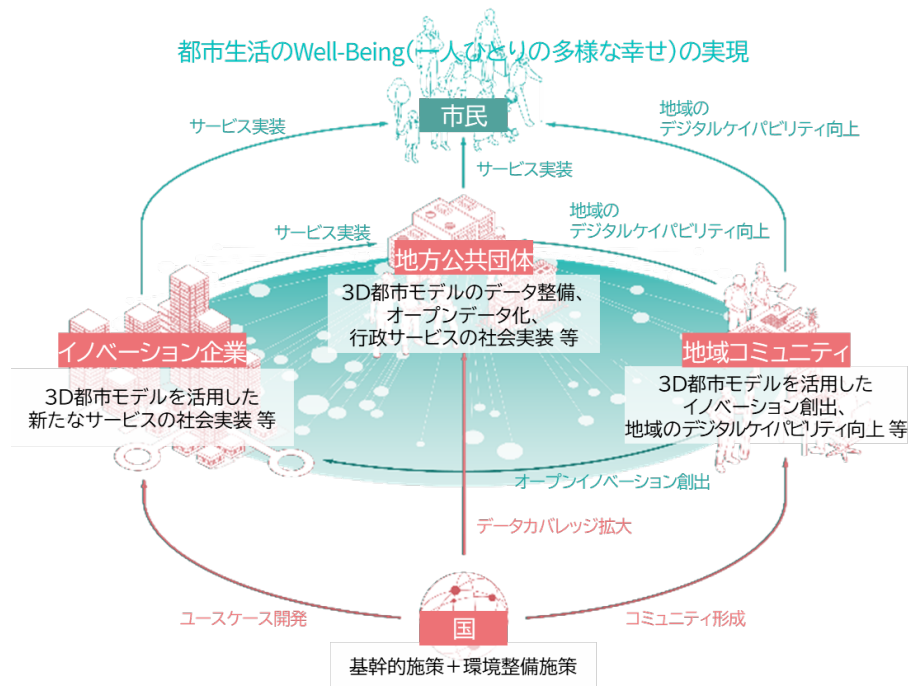


図1：PLATEAUの目指すエコシステム

出典：測量イノベーション大会 2024 ポスター展示資料より

PLATEAU や 3D 都市モデルの認知が進む一方で、これらが準拠する CityGML フォーマット (=地理空間情報に特化した XML フォーマット) のデータ形式の難しさも一般化しつつあります。PLATEAU は、再利用や流通、参加する企業・個人の積極参加を推進するために、国際標準である CityGML に準拠して整備・公開されています。国土交通省都市局では、CityGML 準拠の 3D 都市モデル製品仕様書や作業手順書・ガイドラインなど、関連するドキュメントを余すことなく積極的に公開していますが、やや難易度が高いのが実情です。

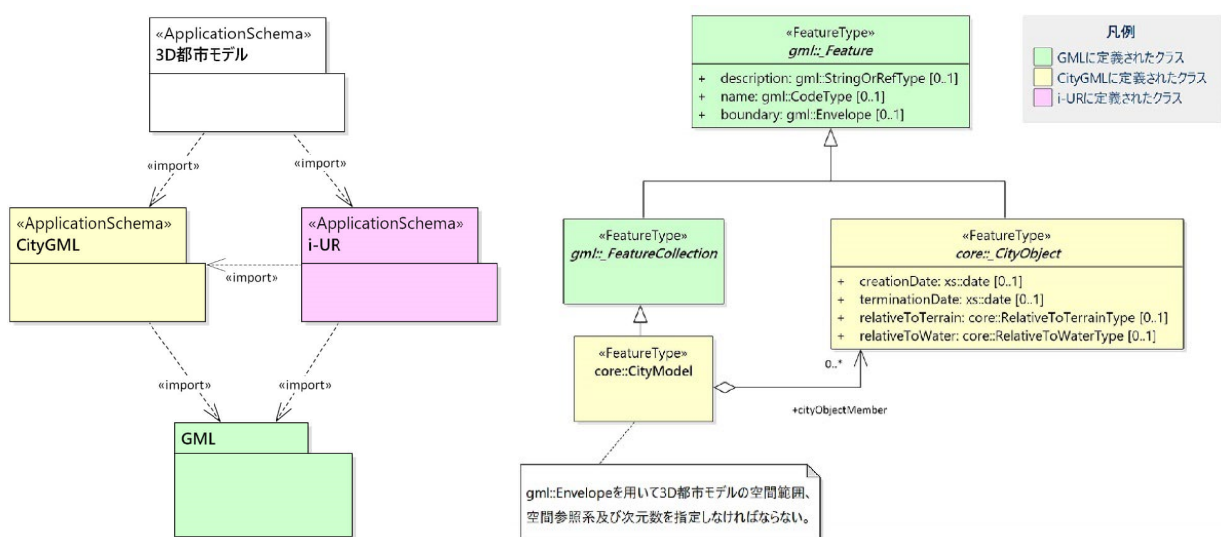


図2：3D 都市モデルの応用スキーマ、地物構成

出典：[3D 都市モデルデータの基本【2/4】](#)

2. CityGML 変換サービス

一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会（以降、「AIGID」という）・G 空間情報センターでは、CityGML を容易に利用したいというユーザーに向けて、3D 都市モデル（CityGML 形式）の作成を支援する「CityGML 変換サービス」を開始することになりました（2024 年 10 月リリース予定）。



図 3：CityGML 変換ファイルイメージ

3. 期待される効果と AIGID・G 空間情報センターの役割

この CityGML 変換サービスの提供により、CityGML フォーマットの難易度だけが参入障壁となっていた企業や個人・研究者が、デジタルツイン実現社会の第一線に参画できるきっかけとなることを期待しています。

PLATEAU や [Society5.0](#) などが目指すデジタルツイン社会は、データを作ることが目的ではなく、作られたデータを使い豊かな経済社会を構築することが真の狙いです。[地理空間情報活用推進基本法](#)（平成十九年法律第六十三号）の第一条には、「現在及び将来の国民が安心して豊かな生活を営むことができる経済社会を実現する上で地理空間情報を高度に活用することを推進することが極めて重要である」と地理空間情報の活用の推進の重要性や理念が示されています。AIGID・G 空間情報センターは、この理念を支える様々な仲介役を引き続き担っていく所存です。

4. 今後の予定

2024 年 10 月のリリースに向けて、事前に用意すべきデータやご利用の流れを解説する講習会を 9 月 20 日に開催予定です。また、この説明会の参加者から抽選で CityGML 変換サービスを無料でお試しいただける無料モニターを募集します（変換数量等、サービス機能には一部制限があります）。ご興味ある方は、説明会への参加をご検討ください。

■関連Webサイト

- ・ CityGML 変換サービス特設サイト：<https://www.plateau-citygml-convert.jp/>
- ・ 9 月 20 日開催 CityGML 変換サービス説明会・無料モニター募集説明会
 - 第 1 回（14 時～）：<https://citygmlconvert2024091.peatix.com/>
 - 第 2 回（18 時～）：<https://citygmlconvert2024092.peatix.com/>

■本件お問い合わせ先

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会 CityGML 変換サービス担当 本間・中川

Email : plateau-citygml-convert@aigid.jp

<https://www.plateau-citygml-convert.jp/>

2.上位アクセス状況(集計期間：2024.7.1-8.31)

登録ユーザー数	89,134 名
期間アクセス数	825,262
登録組織数	689 件
データセット数	14,351 件
ファイル数	87,569 件

人気のデータセット

1	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
3	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 (2023 年度)
4	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2022 年度)
5	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
6	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
7	林業総合センター 長野県_CS 立体図
8	能登地域 微地形表現図ほか (令和 6 年能登半島地震の発災後)
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 札幌市 (2020 年度)
1 0	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 渋谷区 (2023 年度)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[こちら](#)

最終更新順データセット一覧は[こちら](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

イベント情報

- ★ 9/20 CityGML 変換サービス説明会 [14:00-](#) [18:00-](#)
- ★ [10月開催 仙台・札幌 3D 都市モデル作成コース受付中 \(無料\)](#)

4. Project PLATEAU ユースケース：エリマネダッシュボード / アジア航測



アジア航測株式会社新規事業創造本部
ビジネス開発部 UDX プロジェクト室
室長 守屋 三登志

1. エリマネダッシュボードとは

みなさんは、「エリアマネジメント」という言葉をご存じでしょうか。エリアマネジメントは、特定の地域を対象に社会課題や地域課題を解決し、地域の価値向上に向けた取り組みを指します。また、これらの取り組みを、行政ではなく民間企業や地域団体が主導・運営することもエリアマネジメントの特徴です。

2. Project PLATEAU ユースケース

アジア航測株式会社と復健調査設計株式会社は、2022年・2023年の2か年にわたり、広島駅周辺をフィールドとしてエリアマネジメントを支援する為の地域情報プラットフォーム（エリマネダッシュボード）の開発に取り組みました。開発・プロジェクト推進にあたっては、広島駅周辺地区まちづくり協議会 DX ワーキングメンバーやエキキタまちづくり会議メンバーに実証・アンケート等にご協力いただきました。

3. 3D 都市モデルとの関係

近年では、地域の安心・安全・快適な環境づくりや価値向上を目的として、全国でエリアマネジメント団体が活動しています。これらの活動の継続性の担保には、団体メンバー間の円滑な情報共有や、外部に向けて効果的に活動内容を発信する為のツールが必要となっています。

これまでの情報共有は 2D の地図を用いることが一般的でしたが、社会課題や解決に向けた取り組みを地図上で表現することには限界がありました。そこで、視認性や実世界との親和性を向上させ、より「エリアマネジメント」を身近にする為、3D 都市モデルを活用したエリマネダッシュボードを開発しました。

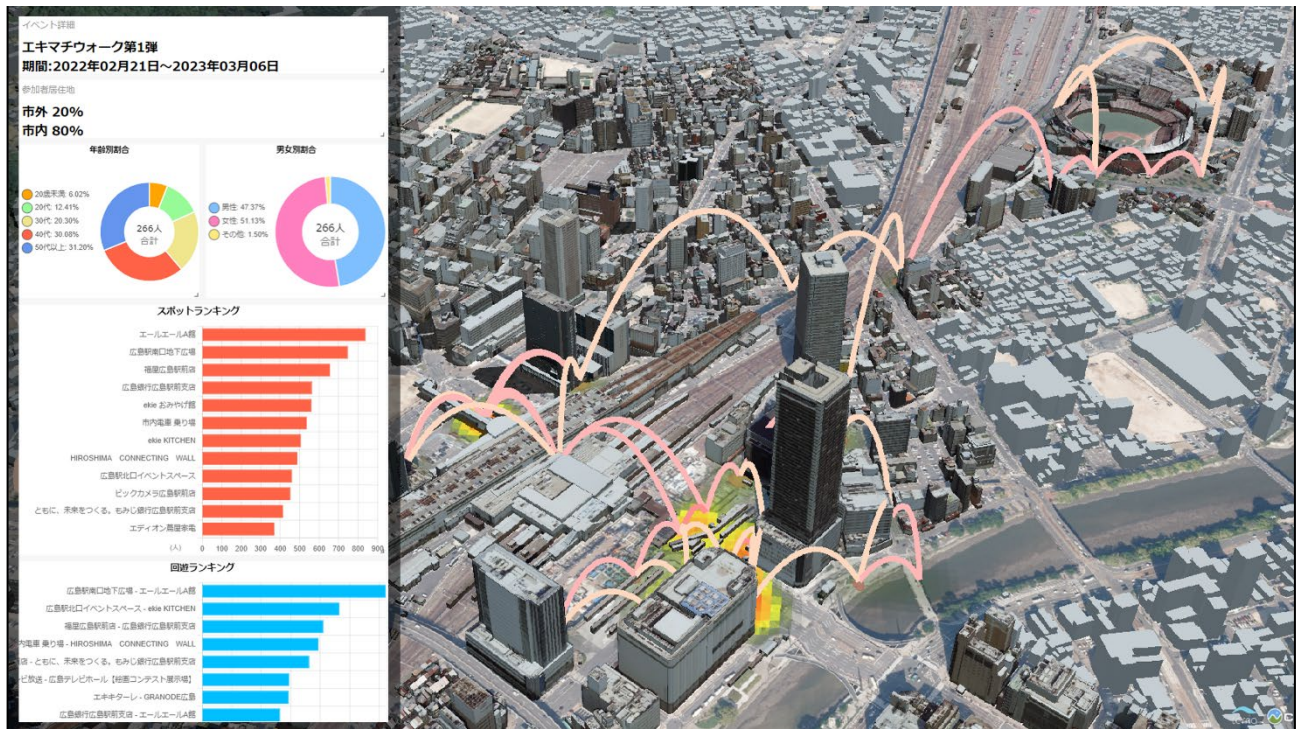


図1：エリマネダッシュボードのイメージ

4. エリマネダッシュボードのサービス概要・機能紹介

開発したエリマネダッシュボードの主な機能は、(1)浸水リスク情報の可視化、(2)スマートフォンからの情報登録、(3)経路探索、(4)エリアマネジメント活動やイベントの情報発信などがあります。

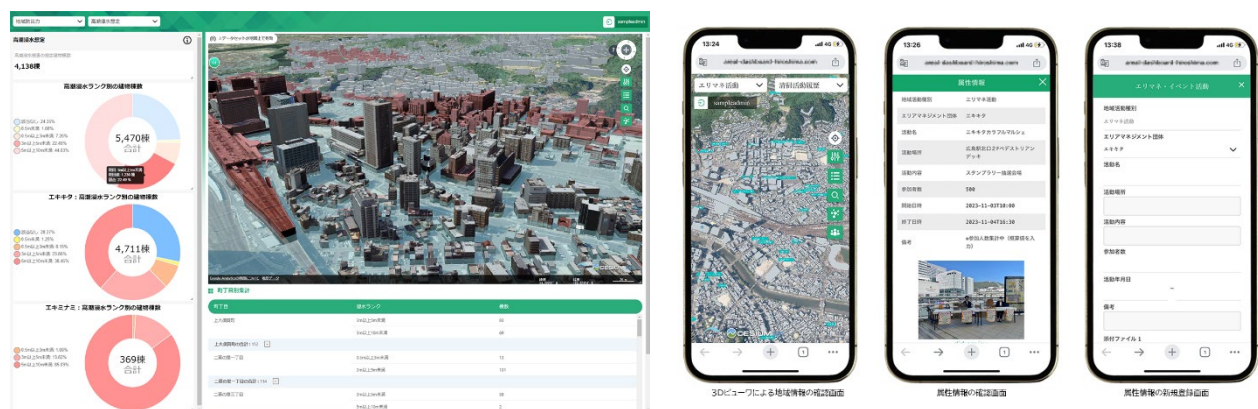


図2：浸水リスク情報の可視化（左図） スマートフォンからの登録画面（右図）

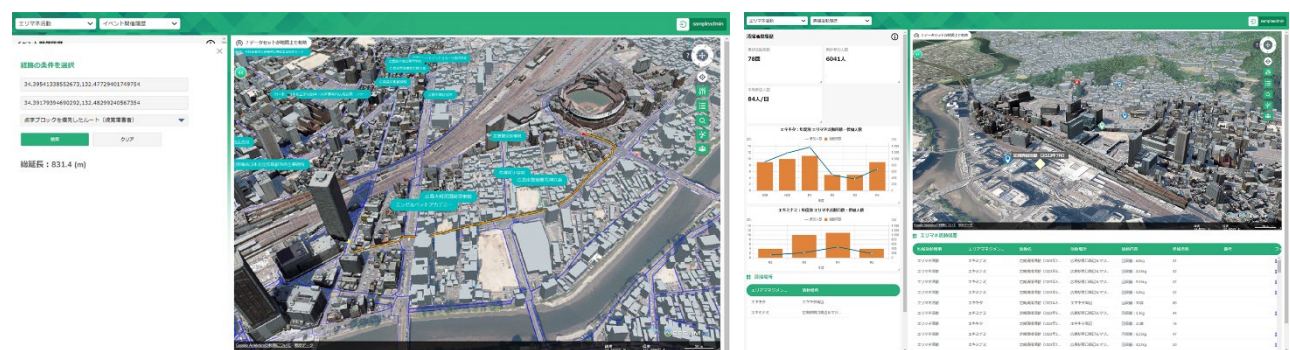


図3：経路探索（左図） エリアマネジメントの活動結果の表示（右図）

サービス検証に参加いただいたユーザからは、以下のような声をいただきました。

- ・浸水の様子など防災に関する情報は災害時の駅周辺のイメージをつかめる為、3D で再現する価値がある。
- ・エリマネ活動や地域防災力、エリマネ投稿など、コンテンツごとにタブが分かれているので、知りたい情報にアクセスしやすい。
- ・会員企業間の情報共有に非常に役立つと感じる。これまでは情報収集に時間を費やしていたが、このシステムであれば瞬時に情報が分かるので大幅な時間削減ができる。
- ・気象情報のリアルタイム表示があれば、発災時に危険な箇所をさけた経路検索ができるのではないか。



図4：参加者への操作説明（左図） エリアマネジメントダッシュボードの説明（右図）

5. サービス構築の為の企業連携

エリアマネジメントにおける地域社会の課題解決には行政・民間事業者・町内会が連携して取り組むことが求められており、組織の枠を超えて合意形成を図ることが重要となります。今回構築した地域情報プラットフォームは、エリアマネジメント活動を持続的な活動につなげる為の幅広い機能の実装に加え、地域に関する様々な情報を集約することができます。今後は、立場の異なるエリアマネジメント会員間における認識の共有や、迅速な合意形成への活用が期待されます。

6. エリマネ団体や自治体の皆様へ

今回の開発では、民間事業者や行政、町内会などから構成されるエリアマネジメント団体会員に向けて地域情報プラットフォームを体験するワーキングを開催しました。その上で、3D 都市モデルビューワと地域情報ダッシュボードの操作性や各機能性の良否を把握するアンケート調査を実施しています。アンケート調査の結果、会員の7割以上から3D 都市モデルビューワと地域情報ダッシュボードを連携したことで、知りたい情報を瞬時に把握できて良かったと高い評価を得ることができています。

自治体やエリマネ団体の皆様には是非、本サービスをご利用いただき、エリアマネジメントをより活性化させ、地域課題や社会課題を地域のちからをあわせて解決する支援につなげていきたいと思っております。

■関連 URL

<https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/uc22-028/>

■エリマネダッシュボードに関するお問い合わせ先

アジア航測株式会社 <https://www.ajiko.co.jp/contact>

「製品情報お問合せ」からアクセスいただき、

担当者名に「Project PLATEAU エリマネダッシュボード担当」とご記入ください。

5. 注目のコンテンツ紹介

南海トラフ地震が発生した場合の宮崎県の最大震度分布



去る8月8日に日向灘を震源とする地震が発生しました。

内閣府の南海トラフの巨大地震モデル検討会において検討を行なった震度分布・浸水域等に係るデータを使用し、宮崎県の震度分布図です。

南海トラフ地震が発生した場合の影響範囲にお住いの皆様は、ご自身の地域の想定震度を可視化してみても如何でしょうか？

*描画イメージは一例です。

[対象データセットはこちら](#)

■G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センターFAQは[こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#)をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール : info@geospatial.jp

TEL : 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。